０７／０２／１８　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：知恵ある預言者―ダニエル
聖書箇所：ダニエル書　１－６章

私たちがこれまでに学んできたイサク、ヤコブ、ヨセフ、ギデオン、そして、ヨブ、彼らはみなすばらしい信仰の勇者たちでした。神を愛して、神も彼らを愛して大いに祝された人物たちでした。ところが、すでに見て来たように、彼らの弱さは聖書の中に記されていました。イサクもヤコブも人を恐れて嘘をついた人でした。ヨセフもうぬぼれという弱さがありました。ギデオンも人を恐れ神経質で喜びがなく否定的でした。また、あのすばらしい信仰者ヨブを見ても、友だちとの会話を重ねるにつれ、自分の潔白さを主張することに独善的になって行きました。みな弱いのです。私たちも彼ら以上に弱い者でしょう。このような信仰の勇者を見てきたときに、みことばは彼らの弱さを記していたのですが、今日見ようとしているこの「ダニエル」に関しては、彼の弱さが記されていないのです。彼の欠点も記されていません。もちろん、だから彼が完全で罪がなかったというのではないことは明らかです。しかし、これまでの勇者たちのようにその弱さが記されていない人物ダニエル、いったいどのような人物であったのか、今日はそのことを見て行きます。

まず、その背景を知らなければいけないので簡単に説明します。ダニエルはバビロンの王であったネブカデネザルによってエルサレムからバビロンに引いて来られました。バビロンに連れて来られた捕虜の一人でした。ダニエル、「神は私のさばきつかさ」という意味をもった名前です。彼がバビロンに連れて来られたときはまだ若かった、１０代でした。今で言うなら中学生か高校生の年代です。そして、約７２年間、彼はエルサレムへ戻ることなくこのバビロンでその生涯を閉じるのです。ユダヤ人捕虜の中の一人であったこのダニエル、ダニエル書を見ると彼と親しかった三人の友人たちのことが記されています。この四人はどのような人たちであったのかというと、１章を見ると、彼らはイスラエルの王族か貴族の家系であったことが分かります。それだけではなく、彼らはその容姿もすばらしく聡明でした。人間的に言うなら、何一つ欠けたところのない、完全に近いような人たちでした。だから、王の宮殿にあって自分に仕えさせようと王は考えました。このような人物こそ自分に仕えるにふさわしい、見た目もすばらしいし頭もいいし、良い家系の者たちだからと。王は彼らにバビロンの最高の教育を３年間与えました。このような人物の一人、そして、その中でも特に優れていた人物がダニエルでした。

このダニエル書を見て行くと、これは捕囚にあっているイスラエルの人々、ユダヤ人たちを励ますために書かれています。大変な状態にある彼らに、神は主権者であってこのような状態にあっても決してあなたたちのことを忘れていない、イスラエルに対する計画を忘れていない、だから、どんなときでも主に信頼を置きなさいと、そのことを教えようとしたのです。まさに、そのように生きた人物がこのダニエルだったのです。今日、私たちはこの１－６章から、ダニエルがどのような人物であったのか、五つの特徴を見ることができるので、それを見て行きます。７章からの後半は彼の預言が出て来るのですが、今日は前半に焦点を当ててダニエルについて学んで行きます。

☆ダニエルの特徴

１．神に対して従順な人であった

神に対して忠実であろうとしたのです。というのは、１章を見ると、彼の信仰が試されるテストがやって来たと言ってもいいと思います。どのようなテストだったか、１：５を見てください。**「王は、王の食べるごちそうと王の飲むぶどう酒から、毎日の分を彼らに割り当て、三年間、彼らを養育することにし、そのあとで彼らが王に仕えるようにした。」**とこのように王が決めたのです。もしかすると、私たちはこれを読んで非常に恵まれていると思うかもしれません。でも、これは非常に大きな信仰のテストでした。なぜなら、王が食べている食べ物の中にイスラエルの人々が神から食べてはならないと命じられているものが含まれているからです。ですから、王の食べ物を食べるということは、その神の律法を犯してしまうことになります。また同時に、みことばが禁じている強い酒を飲むことにもなってしまいます。アルコール分の高いものです。イスラエルの人々はたとえばワインにしてもそれに水を混ぜて、アルコールによって自分自身がコントロールを失うことがないようにしたのです。強い酒を飲むということは、自分自身を誘惑にさらけ出してしまうことになるからです。それは愚かなことであり神に喜ばれることではなかったのです。そして、明らかにこれはイスラエルの地ではなくバビロンでした。異教徒であり偽りの神々に仕える者たちです。ですから、彼らのところに回ってくる食べ物は、そのような偽りの偶像にささげられたものであることは明らかです。それを口にするということはイスラエルの人々にとって大変なことでした。神の命令に背くことになるからです。このことは出エジプト記３４：１５にこのように

記されています。**「あなたはその地の住民と契約を結んではならない。彼らは神々を慕って、みだらなことをし、自分たちの神々にいけにえをささげ、あなたを招くと、あなたはそのいけにえを食べるようになる。」**。

このような状況に立たされたダニエルですが、そのときに彼がしたことは何だったのでしょう？１：８**「ダニエルは、王の食べるごちそうや王の飲むぶどう酒で身を汚すまいと心に定め、身を汚さないようにさせてくれ、と宦官の長に願った。」**と、恐らく、このことを願ったのはダニエルだけではなく三人の友人たちも同じようにしたのでしょう。このように聖書を見て行くと、どの時代の人々であっても神は様々なテストを与えられることが分かります。試みや試練に会わせられます。もしかすると、みなさんも今その中におられるかもしれませんが、神は何のために私たちにそのようなものを与えられるのでしょう？モーセはこのように言っています。申命記８：２**「あなたの神、主が、この四十年の間、荒野であなたを歩ませられた全行程を覚えていなければならない。それは、あなたを苦しめて、あなたを試み、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあるものを知るためであった。」**と、様々な困難、苦しみはそれを通してその人の本当の心を知るためであると言います。私たちがしっかり知るべきことは、そうしなければ神は私たちの心が分からないと言っているのではないということです。神はそのようなことをしなくても分かっておられます。私たちのためです。私たちは自分はいかに愚かで罪深い者であるかということを知っているつもりでも知っていないのです。いろいろな試練を通して私たちは自分がいかに愚かでいかに弱い者であり、いかに罪深い者であるかを私たちが悟れるように、神が働いてくださるのです。ですから、試練は私たちにとってわざわいではなく私たちのためであるというのはそういうことです。神は目的をもって私たちを正しい方向へ導いて行こうとしておられるのです。この最初のテストを経験したダニエルたち、彼らの選択は、私は神の前に正しく歩んで行きたい、たとえそれが王の命令であっても私は主の教えに従順でありたいというものでした。そのように彼らが生きたもう一つの理由は１：９にあります。**「神は宦官の長に、ダニエルを愛しいつくしむ心を与えられた。」**とあります。もちろん、神は人々の心に働いてご自分のみこころを為される、そのことを私たちは知っています。しかし、明らかにそのような心をこの宦官の長が持つような、そのような生き方をダニエルたちはしていたと思われませんか？ヨセフを見てもこの通りでした。ヨセフは様々な困難の中で正しく生きました。その時に、彼を監督する人たちは彼に対して好意をもったのです。ですから、私たちがここで、ダニエル自身が日々どのような生活をしていたのか、そのことを知るのです。このときだけ神に従順であろうとしたのではなく、日々の歩みにおいて神のみことばに従順であろう、みことばに従い続けて行こうとした、それは自分のことばではなく自分自身の日々の生活にその信仰が反映されていたことを明らかに示しているのです。

２．神に信頼していた

２章を見るとまた別のテストがやって来ます。今度は自分自身にいのちの危険が及ぼうとしています。死の危険です。そのときに彼が神を信頼するかどうか、それが試されるのです。というのは、ネブカデネザル王が夢を見るのです。そして、その夢を解き明かすためにバビロンにいるいろいろな者たちが集められて来た様子が２章の初めに記されています。２：１－４**「ネブカデネザルの治世の第二年に、ネブカデネザルは、幾つかの夢を見、そのために心が騒ぎ、眠れなかった。:2 そこで王は、呪法師、呪文師、呪術者、カルデヤ人を呼び寄せて、王のためにその夢を解き明かすように命じた。彼らが来て王の前に立つと、」:3 王は彼らに言った。「私は夢を見たが、その夢を解きたくて私の心は騒いでいる。」 :4 カルデヤ人たちは王に告げて言った。――アラム語で。――「王よ。永遠に生きられますように。どうぞその夢をしもべたちにお話しください。そうすれば、私たちはその解き明かしをいたしましょう。」**。ところが、この王は「あなたたちが本物なら私がわざわざ夢を話さなくてもその夢自体を知っているだろう」と言います。だから、９節に**「…だから、どんな夢かを私に話せ。そうすれば、あなたがたがその解き明かしを私に示せるかどうか、私にわかるだろう。」**と難題を突きつけるのです。夢の解き明かしをするように命じたけれど、その夢がどんな夢か説明しないのです。そうすると、この知者たちは集まってきて「分からない」と言います。１０－１１節**「カルデヤ人たちは王の前に答えて言った。「この地上には、王の言われることを示すことのできる者はひとりもありません。どんな偉大な権力のある王でも、このようなことを呪法師や呪文師、あるいはカルデヤ人に尋ねたことはかつてありません。 :11王のお尋ねになることは、むずかしいことです。肉なる者とその住まいを共にされない神々以外には、それを王の前に示すことのできる者はいません。」**、つまり、王の言われることは人間には無理なこと、神しかできないと言うのです。神々というのは人々が多神教の中に生きていからです。王はそれを聞いて１２節**「王は怒り、大いにたけり狂い、バビロンの知者をすべて滅ぼせと命じた。」**とこのような命令を出します。１３節**「この命令が発せられたので、知者たちは殺されることになった。また人々はダニエルとその同僚をも捜して殺そうとした。」**、ダニエルも彼らと同じ教育を受けていたからです。ですから、この王の命令によってバビロンのすべての知者、そこにはダニエルも友人たちも含まれていたのですが、彼らは**「殺されることになった」**のです。ですから、人々はダニエルのいのちをねらって町の中を走り回って捜しているのです。私たちはそのようなことを経験したことはないでしょう。自分のいのちがねらわれ

るなんて…。しかし、ダニエルはそのような状況に置かれるのです。そのときにダニエルはどうしたのでしょう？彼はいったい何が起こったのかを知りました。そこで１６節**「ダニエルは王のところに行き、王にその解き明かしをするため、しばらくの時を与えてくれるように願った。」**、これを読んでも私たちは別に何とも思わないのですが、実は、これは非常に勇気ある行動だったのです。知者たちは王に夢を話してください、そうすれば解き明かしをしますと言っているのです。２：８に**「王は答えて言った。「私には、はっきりわかっている。あなたがたは私の言うことにまちがいはないのを見てとって、時をかせごうとしているのだ。」**とあります。答えられないから時間稼ぎをしていると言います。このような状況にあった訳ですから、ダニエルがもう少し時間をくださいと言うのは、王にとってはみな同じこと、時間稼ぎしているだけだと王の怒りを買ってしまうことでした。でも、その中でダニエルはこのようなことを王に告げるのです。ダニエルはそこで祈ります。１８節**「彼らはこの秘密について、天の神のあわれみを請い、ダニエルとその同僚が他のバビロンの知者たちとともに滅ぼされることのないようにと願った。」**と。ダニエルはこのような状況の中で自分の力ではどうすることもできないことを知っているのです。ダニエルも確かに教育を受けました。しかし、この夢を解き明かすことは自分の力では不可能であることをダニエルは知っているから、神の前に助けを求めるのです。私たちも同じことを学ばなければいけません。どんなときでも私たちは神の助け、神の力、神の知恵を求めなければいけないのです。私たちの問題は神の助けがなくてもできると思うところにあるのです。実は、ネブカデネザルも同じ問題をもっていて神によってそれが指摘されるのです。プライドというものに気を付けなければいけません。自分の力に過信するというのは恐ろしいことです。このようなダニエル、彼は神の前にひざまずき神に答えを求めます。そして、神はそのダニエルに答えを与えます。１９節**「そのとき、夜の幻のうちにこの秘密がダニエルに啓示されたので、ダニエルは天の神をほめたたえた。」**。

２０－２３節を見るとダニエルが神に感謝をささげているのですが、この感謝の中にダニエル自身の神観というものが出ています。ダニエルは自分の神をどのように見ていたのか、どのように理解していたのか、それを見て取ることができるのです。（１）神の全知全能を認めています。２０節**「ダニエルはこう言った。「神の御名はとこしえからとこしえまでほむべきかな。知恵と力は神のもの。」**、私の神はすべてのことを知りすべてのことができるお方だと言います。（２）神は主権者である。２１節**「神は季節と時を変え、王を廃し、王を立て、」**、季節と時は自然界における力です。ご自分の望むままを為さると言います。**「王を廃し、王を立てる」**というのは人間の社会における神の力です。すべてのことを神はコントロールされているというのです。（３）知恵を与えることができるお方。２１節ｂ**「知者には知恵を、理性のある者には知識を授けられる。」**、ですから、ダニエルはこの後見て行きますが、夢の解き明かしをしたときもそれは自分の知恵によってではないことを明らかに話しています。神が与えてくれると言っています。（４）神の知恵の偉大さ。２２節**「神は、深くて測り知れないことも、隠されていることもあらわし、暗黒にあるものを知り、ご自身に光を宿す。」**と、人が知り得ないことを神はご存じだと言います。すべてのことを明るみに出されるお方なのです。（５）先祖の神。２３節**「私の先祖の神。私はあなたに感謝し、あなたを賛美します。あなたは私に知恵と力とを賜い、今、私たちがあなたにこいねがったことを私に知らせ、王のことを私たちに知らせてくださいました。」**、あのアブラハム、イサク、ヤコブが信じた神、彼らを導かれた神です。ですから、この感謝の祈りをダニエルがささげたときに、「神さま、祈りに答えてくれてありがとう」ではなく「神さま、あなたは本当に偉大なお方です。あなたの知恵は優れているしあなたの力は勝れている、あなたはすべてを支配しておられる、あなたが私たちに知恵をくださるのであって私たちはあなたの知恵を理解することもできない、そして、あのアブラハムを導かれあのイサクを導かれあのヤコブを用いられた偉大な神だ」と、わずかな感謝の祈りの中に彼自身が信じていた神がどういうお方なのかを彼自身が証してくれるのです。私たちが神に対して強い信頼をもつには、私たちは正しい神観をもたなければならないのです。あなたの神に対する信頼が増し加わるためには、あなたは正しく神のことを知って行かなければいけないのです。正しい神観は神学ということもできます。すなわち、神について学ぶことです。正しい神学をもつことによって、それは正しい生き方を生み出します。ですから、私たちは神について学ばなければいけないのです。神以外のことを学んでも意味がありません。私たちが神を知れば知るほど私たちの生き方は変わって来ます。ダニエルのこんな短い祈りの中でも彼自身がもっていた神観は、もしかすると、私たちのそれより深いかもしれません。ぜひ、みなさん覚えてください。だから、いのちの危険に直面していたダニエルはその中にあって主を信頼したのです。主に信頼できたのです。この方に任せておけば大丈夫と言い切れたのです。それは彼が自分の神を知っていたからです。最初に話したように、いろいろなテストは私たちが本当に神をどれほど分かっているのか、私たちの信仰とはどのようなのか、それらを私たちに悟らせてくれます。神は分かっておられます。私たちが分かっていないのです。ダニエルはこのような危険の中で正しい選択をしたのです。主を信頼しようと…。その結果、このネブカデネザル王がダニエルの神の偉大さを認めることになるのです。２：

４６に**「それで、ネブカデネザル王はひれ伏してダニエルに礼をし、彼に、穀物のささげ物となだめのかおりとをささげるように命じた。」**とあり、４７節には**「王はダニエルに答えて言った。「あなたがこの秘密をあらわすことができたからには、まことにあなたの神は、神々の神、王たちの主、また秘密をあらわす方だ。」**と、すばらしい証が為されたのです。私たちは私たちの家族や友人に証をしたいと望んでいます。そのために必要なことは、もちろん、ことばをもって語って行くことも必要ですが、私たちの生き方です。私たちがいつでもどんなときでも主を信頼してみことばに従って歩んでいるなら、神は私たちを用いてくださるのです。私たちの生き方にはことばよりも力があるのです。みことばに従い主を信頼して生きること、そのようにダニエルは生きたのです。そして、この当時、最も力のあったこの王が神に対して徐々にその知識を増し加えて行くのです。すごいわざが神によって為されたのです。

３．真実な人

いつも真実を話したのです。この４－５章にそのことが出て来ます。４章を見るともう一度ネブカデネザル王が夢を見、ダニエルに夢の解き明かしを求めるのです。その夢は、天にも届くような大きな木があり、ひとりの聖なる者が天から降りて来てその木を切り倒してその根株に青銅の鎖を付けなさいという、非常に奇妙な夢でした。そして、七つの時がその上を過ぎるという、こんな夢をネブカデネザル王は見たのです。もちろん、だれもこれを説明することはできません。そこでダニエルが呼ばれるのですが、これはネブカデネザル王にとって悪い知らせでした。病に陥るという知らせですが、なぜ、そのようになるのかというと、彼が自らの権力と威光を誇り続けるために、自分で築き上げた、自分の力で達成したと、非常に高いプライドによって彼は病に陥るという、それがこの夢の内容でした。そのことをダニエルは知るのです。４：１９に**「そのとき、ベルテシャツァルと呼ばれていたダニエルは、しばらくの間、驚きすくみ、おびえた。」**とあり、その夢の意味を知ったときにダニエルはおびえたのです。果たして、これを王に告げるべきかどうかと…。彼がした選択は勇気をもって真実を語るということでした。４：２７**「それゆえ、王さま、私の勧告を快く受け入れて、正しい行ないによってあなたの罪を除き、貧しい者をあわれんであなたの咎を除いてください。そうすれば、あなたの繁栄は長く続くでしょう。」**と、悔い改めを王に求めるのです。同僚なら、子どもならできたかもしれません。でも、自分の国の大王に対して、あなたの罪を悔い改めなければなりません、あなたは間違っていますなどと言うのは、並大抵の勇気ではできないことです。でも、ダニエルはそれが神が望んでおられることだと知っていたのです。その結果、４：３７を見ると**「今、私、ネブカデネザルは、天の王を賛美し、あがめ、ほめたたえる。そのみわざはことごとく真実であり、その道は正義である。また、高ぶって歩む者をへりくだった者とされる。」**とあり、ネブカデネザル王はここで大切なレッスンを学んだのです。彼はダニエルの勧告に対して心を開きませんでした。その結果、預言されていたことが彼の身に起こったのです。精神的な病に陥りました。しかも７年間も。そして、彼は自分が間違っていたことに気付くのです。神はもう一度彼を立てます。３３－３４節に**「このことばは、ただちにネブカデネザルの上に成就した。彼は人間の中から追い出され、牛のように草を食べ、そのからだは天の露にぬれて、ついに、彼の髪の毛は鷲の羽のようになり、爪は鳥の爪のようになった。:34 その期間が終わったとき、私、ネブカデネザルは目を上げて天を見た。すると私に理性が戻って来た。それで、私はいと高き方をほめたたえ、永遠に生きる方を賛美し、ほめたたえた。その主権は永遠の主権。その国は代々限りなく続く。」**とある通りです。３７節で**「賛美し、あがめ、ほめたたえる。」**とありますが、このことばの時制が習慣的に繰り返し行なうという時制であるゆえに、ネブカデネザル王がこのことを継続して行なった、だから、彼はここで信仰をもったのではないかという説があります。これは神のみがご存じです。しかし、少なくとも私たちに言えることは、このような一連の出来事を通してネブカデネザル王は真の神のことを知っているのです。しかも、いかにへりくだることが大切かということまでも、そして、このイスラエルの神が真実な正しい神であることを学んでいるのです。

大変なときでも真実を語ろうとしたダニエル、そのことは５章の中にも続いています。人の顔色を見て話すのか、それとも、真実を語るのかと、そのテストが５章に出てくるのです。４３年間、王であったネブカデネザルは亡くなりました。そして、彼の子、ベルシャツァルが王になりました。５章を見て行くと、彼が宴会を開いたときに突然指が現われて塗り壁に文字を書き始めるのです。みな驚いたけれど、だれもそれを解き明かすことができない、そこで王母がダニエルを呼ぶように言います。１０節から記されています。そして、ダニエルが呼ばれてきました。彼はそれを見て、それがどういう意味を表わすのか分かっていました。それは、この王の治世が終わることを告げるものでした。なぜなら、ベルシャツァルはネブカデネザルの一連のレッスンを見てきたにもかかわらず、その神に対して正しく歩もうとしなかったからです。神に対して罪を犯した、だから、あなたの治世が終わるということをその文字は告げていたのです。「メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン」とアラム語で記されていました。「数えられた、量られた、分割された」という意味です。その通り、この国は分割されて行くのです。これも大変だったことでしょう。王にこのことを告げるというのは…。５：３０を見ると**「その夜、カルデヤ人**

の王ベルシャツァルは殺され、」とあります。解き明かしをしたその夜です。ダニエルは勇気がいったことでしょう。ネブカデネザル王とは親しかった、今度はその子どもです、しかし、彼に対してもだれも聞きたくないような知らせであっても、彼は語らなければいけなかったのです。神のおことばはきびしいです。私たちの心にナイフのように突き刺さります。私たちが期待することは、もう少し優しいことを教えてほしい、聞いていて楽しくなるようなことをと…。そこに誘惑があるのです。ダニエルもこのような状況で王が聞いて喜ぶようなことを、妥協して、神のメッセージを曲げて語ることもできたかもしれません。でも、彼はそれは神の前に正しくないと分かっていました。だから、神の言われることをそのまま伝えようとしたのです。私たちも同じです。どんなところにあっても、人の顔色を見て彼らに気に入られるようにするよりも、神が喜ばれることを私たちは選択するべきです。神が言われていることを、もちろん、言い方に愛をもって礼儀をもって言うことは正しいことです。しかし、私たちが絶対にしてはならないことは神のメッセージを妥協して曲げることです。ダニエルはそのことをしませんでした。

４．謙遜な人

ダニエルはどのような人だったのか、四つ目に見ることは非常に謙遜な人でした。今、私たちはダニエル書を見てきましたが、共通しているのは、神の栄光を横取りするかどうか、それがテストでした。ダニエルはいろいろな状況にあって、王に彼の夢の解き明かしをしたときに、ほうびをもらえる、名誉をもらえる、いろいろな特権がありと、確かに、誘惑がありました。私がやりました、私が解き明かししましたと、自慢することができたのですが、みことばを見るとダニエルは一度も自慢などしていません。自分の手柄にはしていないのです。なぜなら、彼は分かっていたのです。神に知恵があり、神の知恵が私に与えられたに過ぎないということを。ですから、彼はそのことをいつも告白するのです。２：２８から見てください。**「しかし、天に秘密をあらわすひとりの神がおられ、この方が終わりの日に起こることをネブカデネザル王に示されたのです。あなたの夢と、寝床であなたの頭に浮かんだ幻はこれです。:29 王さま。あなたは寝床で、この後、何が起こるのかと思い巡らされましたが、秘密をあらわされる方が、後に起こることをあなたにお示しになったのです。:30 この秘密が私にあらわされたのは、ほかのどの人よりも私に知恵があるからではなく、その解き明かしが王に知らされることによって、あなたの心の思いをあなたがお知りになるためです。」**、ダニエルは繰り返し私に知恵があるのではない、私の知恵が解き明かしをしたのではない、神の知恵がそれを可能にしたのだ、だから、私がほめられる必要はない、解き明かしをした神がほめたたえられるべきだと言うのです。私たちもいろいろなところでそのような誘惑があります。神が為してくださっているのに、神に栄誉が行かないで私たち人間がそれを横取りしてしまうのです。私を見てください、私はこんなにすごい働きをしていますと。クリスチャンであるみなさん、どんな働きをしていてもそれは神がさせてくださっているのです。誉められなければいけないのは神です。私たちを罪の中から救い出して、私たちを変えて用いてくださっている神が称えられなければいけないのです。あの人が偉い、この人が偉いではなく、その人たちを用いておられる神が偉いのです。ダニエルは分かっていたのです。すべてのすばらしい働きは神のわざであると。だから、神に対して非常に謙遜でへりくだった人でした。

５．主を恐れる人

６章を見ると、今度は「あなたはだれを恐れて生きるのか」というテストが与えられます。ダリヨス王の時代にこんな命令が出ました。王以外のものに祈りをする者はライオンの穴に投げ込まれると。６：４－２７にそのことが記されています。４節を見ると**「大臣や太守たちは、国政についてダニエルを訴える口実を見つけようと努めたが、何の口実も欠点も見つけることができなかった。彼は忠実で、彼には何の怠慢も欠点も見つけられなかったからである。」**とあります。ねたみがあったのです。なぜなら、イスラエルの捕虜の中から選ばれた人物がこんなに大きな責任ある仕事をしていると、みんなねたんだのです。だから、彼の中に落ち度を、訴える口実を見つけようとするのです。でも、見つからないのでこのような法令を設けたのです。そして、その法令に王が署名をされた後、しめた、これでダニエルを捕らえて彼を処罰することができると思ったのです。その通りダニエルを捕らえて、記されているようにライオンの穴に投げ込まれてしまうのです。この命令がでたときに当然ダニエルには選択がありました。隠れて見えないようにして信仰を守り通すということ、しかし、彼がしたことはそれまでと全く変わりなく一日３回、主の前に祈ったのです。それによって自分の身に危険が及ぶことを知っていました。知っていたけれど、ダニエルは神の前に正しいと思うことを止めなかったのです。人間の目を、また人間を恐れたのではなく、その人間をすべて支配しておられる神の目を見て神を恐れたのです。だから、彼は神の前に正しいことを継続して行こうとしたのです。人よりも神を恐れていた、その信仰をもっていたことを私たちは彼の行ないによって明らかに知るのです。

使徒の働き４章でペテロとヨハネが捕らえられたときに、彼らはこのように言いました。**「ペテロとヨハネは彼らに答えて言った。「神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください。」**（４：１９）。彼らも同じです。私たちは神の前に正しいことをする、神の命令に従っ

て行くのだ、たとえ、あなたがたによって迫害されようと私たちの責任は神の前に正しいことをして行くことだと。ダニエルも同じです。ですから、時代がどう変わろうと、神に喜ばれる信仰者は同じように生きたのです。彼らは神を愛するゆえに神を恐れて生きたのです。神を心から敬ったのです。それは正しく神に従って行こうとするその生き方によって明らかにしたのです。時間の関係でもうこれ以上話すことができませんが、３章を見ると、このダニエルの三人の友人たちの信仰も描かれています。同じように主を信じた者たちです。彼らはネブカデネザル王に対してひれ伏して拝まなければならなかった、しかし、彼らはそれをしませんでした。そして、彼らは燃える炉の中に投げ込まれるのですが、彼らが王に言ったことが３：１６から記されています。**「シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴはネブカデネザル王に言った。「私たちはこのことについて、あなたにお答えする必要はありません。:17 もし、そうなれば、私たちの仕える神は、火の燃える炉から私たちを救い出すことができます。王よ。神は私たちをあなたの手から救い出します。:18 しかし、もしそうでなくても、王よ、ご承知ください。私たちはあなたの神々に仕えず、あなたが立てた金の像を拝むこともしません。」**と、王は怒り狂いました。しかし、彼らが言ったこと、彼らがしたことはこういうことです。（１）彼らは神の前に正しい選択をしました。偶像礼拝をしないということです。ネブカデネザル王という偶像を崇拝しない、崇拝するのは神だけだと。（２）彼らは神の力を信じているのです。炉の火の中に投げ込まれたとしても、神はそこから救い出すことができる、私の神は全能だと。そして、（３）彼らは自分の思いよりも神のみこころを優先しました。**「もしそうでなくても、…」**と言っています。神のみこころがなること、それが私が望むことだと言うのです。すごい信仰者です。バビロンに連れて行かれたこの捕虜たち、彼らの信仰はまさに新約聖書で学んでいる信仰と同じです。旧約であっても新約であっても、どこの場所でも国籍がどこであろうと、神が言われていることは常に同じです。「わたしは、わたしを尊ぶ者を尊ぶ。わたしをさげすむ者は軽んじられる。」（Ｉサムエル２：３０）、私たちがこの神を心から尊ぶなら神はそれに報いてくださる、それは、私の望むことを与えてくれるのではありません。私を通してみこころを為してくださるのです。

　ダニエルという人物、主に忠実であり主に従順でした。神に絶対なる信頼をおいて歩んでいました。常に真理を恐れずに語った人です。また、謙遜で神に栄光を帰すことだけを考え、主を恐れて生きた人です。ですから、このみことばの中に、このダニエル書の中に彼のことを「神に愛されている人」と記されています（９：２３、１０：１１、１０：１９）。その理由は今見てきました。だから、神に愛されたのです。あなたの歩みはいかがでしょうか？